

第5章 集落元気づくりへの提案及び支援検討

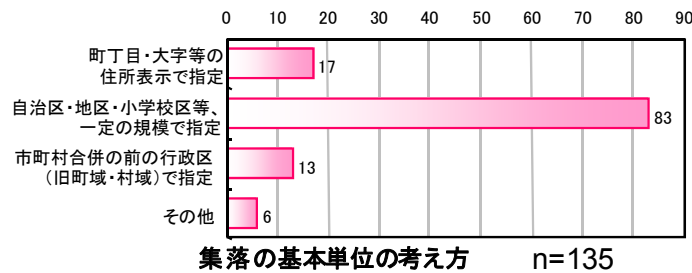
1. 九州圏集落情報データベース(仮称)の作成

(1) 本調査の成果・判明点・課題

① アンケート調査の成果・判明点・課題

1) 集落の基礎データは既存の統計データでは把握が困難

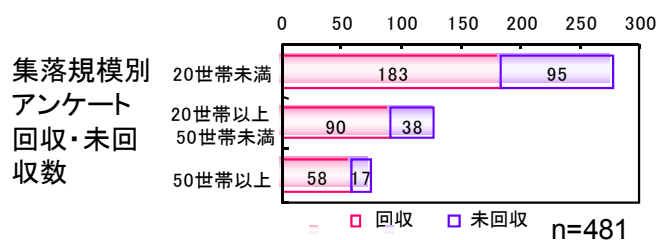
集落単位が自治体毎に異なるため、集落の基礎データは既存の統計データでは把握が困難であり、集落の実態を正確に捉えられない。



今後の課題として、集落単位の実態を踏まえて考え方の整合を図るなどの工夫が必要であり、また、集落支援を行うのに必要な基礎情報を独自に集めることも必要となる。

2) 小規模集落の実態把握は更に困難

集落アンケートにおいて、小規模な集落ほど、アンケートへの回答率が低く、情報入手が困難であることが判明した。



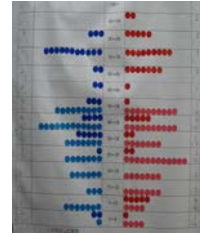
今後の課題として、把握が困難な小規模集落に対しても自治体と協力して情報を収集し、実態を継続的に把握することが必要である。

② ワークショップの成果・判明点・課題

1) 世帯毎のきめ細やかな情報分析が必要

世帯毎に実態を点検し、情報分析することにより、身近な集落支援者(他出者)の実態を把握できる。

八重集落の人口構成では、集落人口の2倍が他出している
また、他出者のうち、約3割程度が
近隣市町村に定住している。



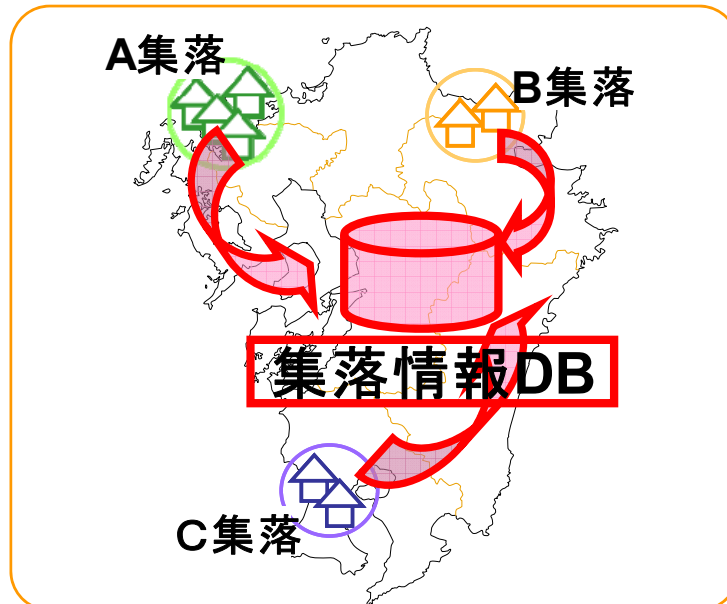
そこで、世帯毎の実態把握のため、他出者や世帯毎の不安等のきめ細やかな実態を把握し、その傾向を分析することが必要である。

(2) 九州圏集落情報データベース(仮称)の作成 (今後の取組提案)

20 世帯以下の集落の実態も含む、集落情報を継続的に収集し、集落元気づくりの展開に必要な九州独自の集落実態の継続的に把握する。

そのためには、下記の取組の実施が望まれる。

- 自治体・集落からの定期的な集落情報の収集(アンケート)
- 地理情報システム等を用いた集落データの集計・蓄積
- 集落データの分析
- 世帯毎のニーズ把握による他出等の傾向分析
- 集落実態を継続的に把握



九州圏集落情報データベース(仮称)のイメージ図

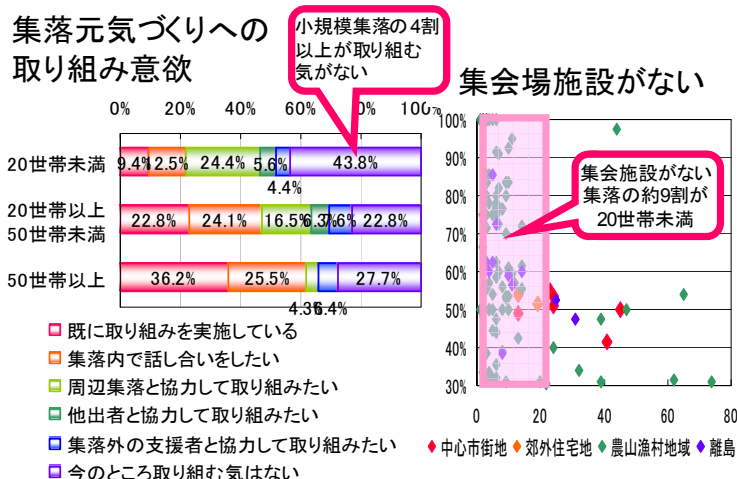
2. 九州版「集落元気づくり」へのきっかけづくりワークショップによる支援

(1) 本調査の成果・判明点・課題

① アンケート調査の成果・判明点・課題

1) 小規模な集落ほど話し合いの場となる集会所がない

アンケート調査の結果、小規模な集落ほど集落元気づくりへの取組意欲が乏しく、話し合いのための施設が無いことが判明した。



今後の課題として、集落元気づくりの話し合いの場の創出に困っている小規模集落に対する支援が必要であり、また、小規模集落等、参加の場の創出が困難な集落においては、住み込み型をはじめとしたワークショップ以外の手法の検討が必要となる。

② ワークショップの成果・判明点・課題

1) 参加の場の創出でのワークショップ開催効果を確認

八重集落でのワークショップは集落活動のやる気（新たな取組）に結びつき、集落元気づくりのワークショップを、初期段階(参加の場の創出)に開催することの効果が確認された。

今後の課題として、九州圏特有の離島・半島地域等の集落でも実施し検証することが必要である。

③ 先行事例調査の成果・判明点・課題

1) 外的支援による集落支援のきっかけづくり

宇佐市院内町余谷地区は、10年前に行政支援を受けて取組を開始し、現在は集落連携により自立して活動しているなど、先行事例調査において、外的支援により活動を開始し、その後自立していく事例が多く見受けられた。

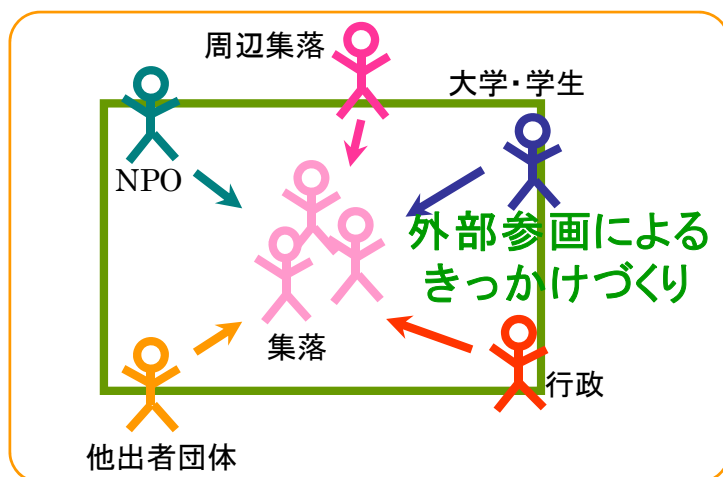
今後の課題として、集落元気づくりへのきっかけづくりに向けた外的支援に積極的に取り組む事が必要である。

(2) 九州版「集落元気づくり」へのきっかけづくりワークショップによる支援（今後の取組提案）

八重集落にて実証された集落元気づくりワークショップの効果を九州各地で検証する。その際、世帯毎の意向や他出実態も調査し、参加者の意志による元気づくりを支援する。

そのためには、下記の取組の実施が望まれる。

- ワークショップ開催を地理的条件の違う集落で実施（離島・半島部）
- ワークショップを開催する集落の世帯規模・高齢化率を変えて実施
- 本当に支援を求めている小規模集落(20世帯未満)へは再編も含めた支援策の検討
- ワークショップやその他支援手法について検討(地元団体による長期的支援、学生等地元滞在型支援のあり方)



九州版「集落元気づくり」へのきっかけづくりワークショップによる支援イ

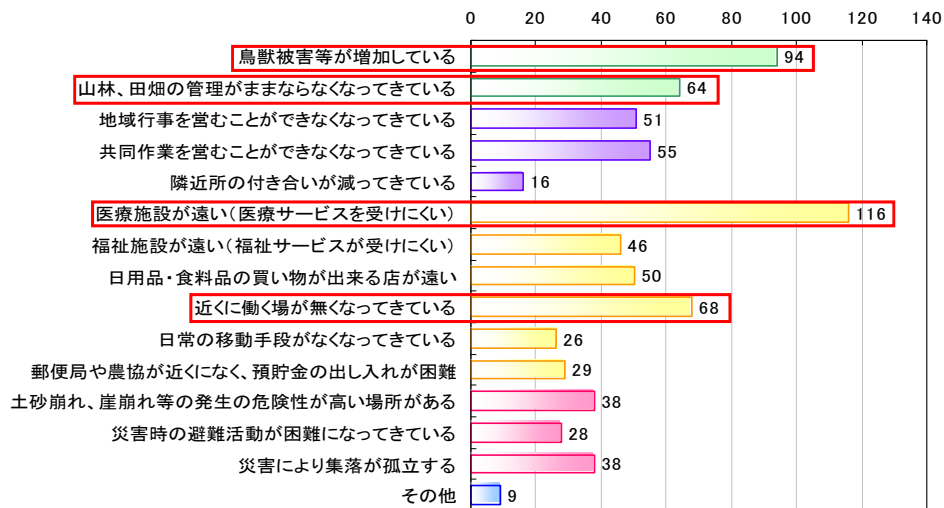
3. 九州版「自立的な集落元気づくり」の取組体制の構築

(1) 本調査の成果・判明点・課題

① アンケート調査の成果・判明点・課題

1) 暮らしの不安の解消が必要

集落アンケートに記された暮らしの不安の解消は集落元気づくりのために先ず考える必要があるが、集落だけで取り組む事が困難なことも多い。



今後の課題として、人が生活を続けていくための不安解消が自立的な集落元気づくりにはまず必要となる。

2) 九州圏内で集落元気づくりへの協力意向のあるNPOは約200団体

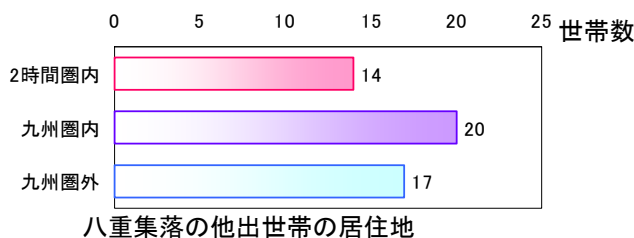
平成19年度NPOアンケート調査において、集落支援を考えても良いと回答したNPOは九州圏で約200団体存在した。

今後の課題として、持続的な集落元気づくりの展開には、新たな支援者も含めた支援体制を地域の実情に応じて構築する必要がある。

② ワークショップの成果・判明点・課題

1) 集落の近隣に生活する他出者の実態

八重集落の全世帯アンケートより、日常的に戻れる距離に居住している世帯も多いことが把握できる。



今後の課題として、持続的な集落元気づくりの展開には、新たな支援者も含めた支援体制

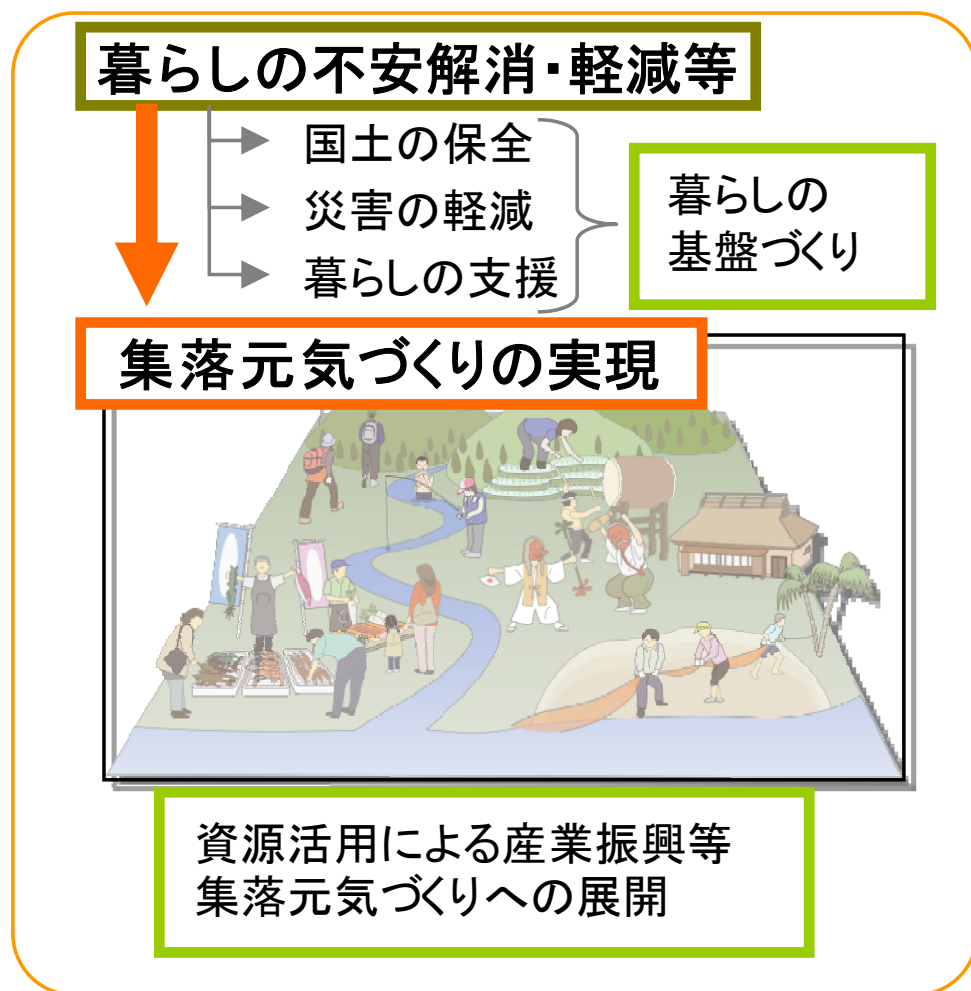
制を地域の実情に応じて構築する必要がある。

(2) 九州版「自立的な集落元気づくり」の取組体制の構築（今後の取組提案）

集落に人が住み続けることにより維持される国土の保全をはじめとした暮らしの不安軽減を図った上で、自立的な集落元気づくりの体制を検討し、構築を支援する。

そのためには、下記の取組の実施が望まれる。

- 集落の暮らしの不安解消・軽減に向けた取組の推進
- 集落再編や他出者等の協力も含めた「集落元気づくり」の実現に取り組む体制の検討・構築支援



九州版「自立的な集落元気づくり」の取組体制のイメージ図

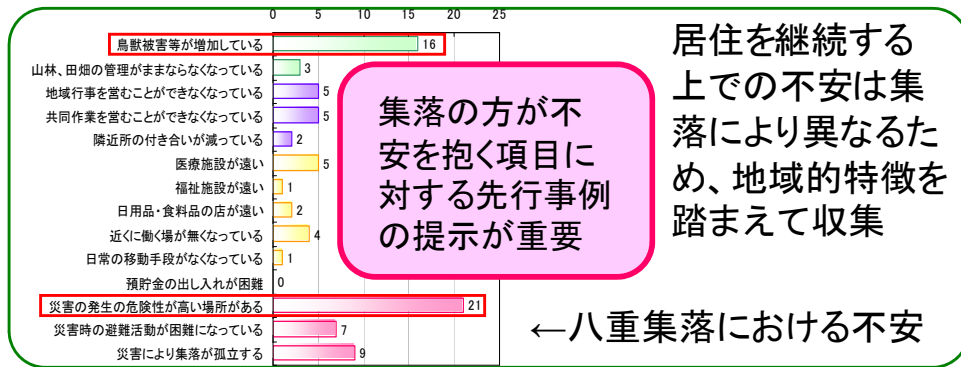
4. 九州版「集落元気づくり知恵袋集」の作成・更新と活用

(1) 本調査の成果・判明点・課題

①ワークショップの成果・判明点・課題

1) 効果的な先行事例の紹介が必要

ワークショップでの先行事例の紹介は更なる深い議論のために有効であるが、事例が不足する分野等の補完が必要である。



今後の課題として、集落元気づくりに有効な多様な分野にまたがる先行事例を活用するための情報収集・整理や情報提供ツールの充実が必要となる。

②先行事例調査の成果・判明点・課題

1) 「集落元気づくり」に取り組んでいる様々な主体

先行事例調査において集落支援を行う支援者は、NPO、他出者団体、行政、大学等多様であることがわかった。

今後の課題として、集落元気づくりにおける支援組織、交流の場づくりに着目した事例紹介が必要である。

2) 集落元気づくりには取組を始めたきっかけやプロセス事例が有効

現在進行過程にある集落元気づくりの活動主体・集落住民に対する現地調査により、支援を受けたきっかけ・時期について把握したことで、プロセスも含めた助言が可能となった。

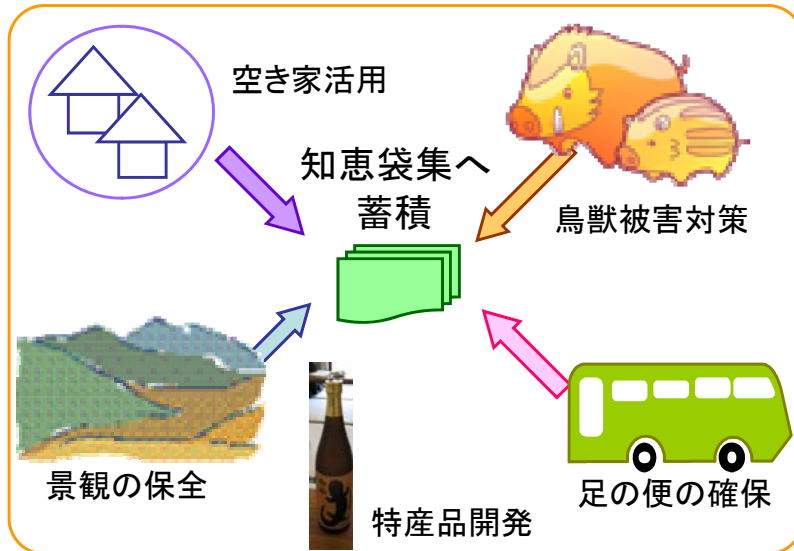
今後の課題として、現在実行中であるものも含め、事業進行過程にある事例を収集し、実現プロセスや課題克服への工夫等を整理し活用することが必要である。

(2) 九州版「集落元気づくり知恵袋集」の作成・更新と活用（今後の取組提案）

集落元気づくりを行う上で、集落特有の課題を解決するための知識や技の蓄積を図り、個々の集落に顕在化するニーズ(不安の解消)に合わせた集落元気づくりを進めるツールとして用いる。

そのためには、下記の取組の実施が望まれる。

- 集落元気づくりに必要な取組分野やプロセスに着目した先行事例の収集・整理を、
現地調査を基本に実施
- 集めた先行事例をデータベース化し、知恵袋集として公表・活用
- 集落元気づくりの進行に合わせ、新たな情報を定期的に更新



九州版「集落元気づくり知恵袋集」の作成・更新と活用イメージ図

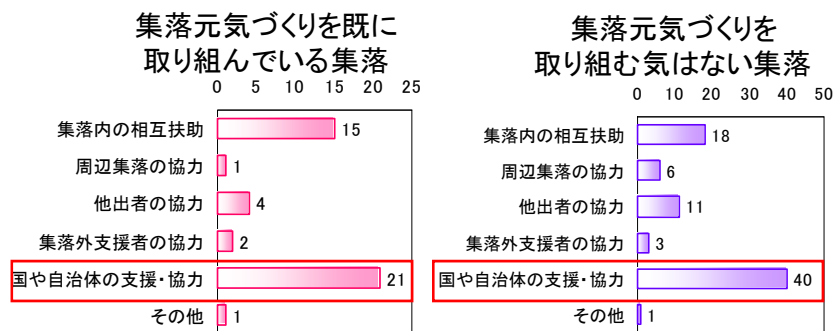
5. 九州圏の「集落元気づくり」の支援を行う中間組織の検討

(1) 本調査の成果・判明点・課題

① アンケート調査の成果・判明点・課題

1) 行政への「集落元気づくり」への支援要望は高い

集落元気づくりへ取り組む気がある、ないに関わらず、国や自治体への支援・協力要望は高いことが判明した。



今後の課題として、集落元気づくりのきっかけづくりをはじめとして行政が関与する支援体制の構築が必要となる。

② ワークショップの成果・判明点・課題

1) 集落元気づくりを支える専門家の育成

集落元気づくりを集落にて展開するためにはある程度の専門性や経験が求められることが明らかになった。

今後の課題として、集落元気づくりに取り組む専門技術を有する人材育成の検討が必要である。

2) ワークショップ後の実行段階での支援策の検討

集落元気づくりが実行される時の支援体制の構築と、その後のフォローアップが必要であることが判明した。

今後の課題として、実行段階において、集落及びその支援者が求める支援及びフォローアップの検討が必要である。

③先行事例調査の成果・判明点・課題

1) 住民の不安を解消する「集落元気づくり」への取組

鳥獣被害、生活サービス(医療・教育等)不足、災害不安、共同作業の実施困難など、集落元気づくりには居住継続に向けた不安解消が求められる。

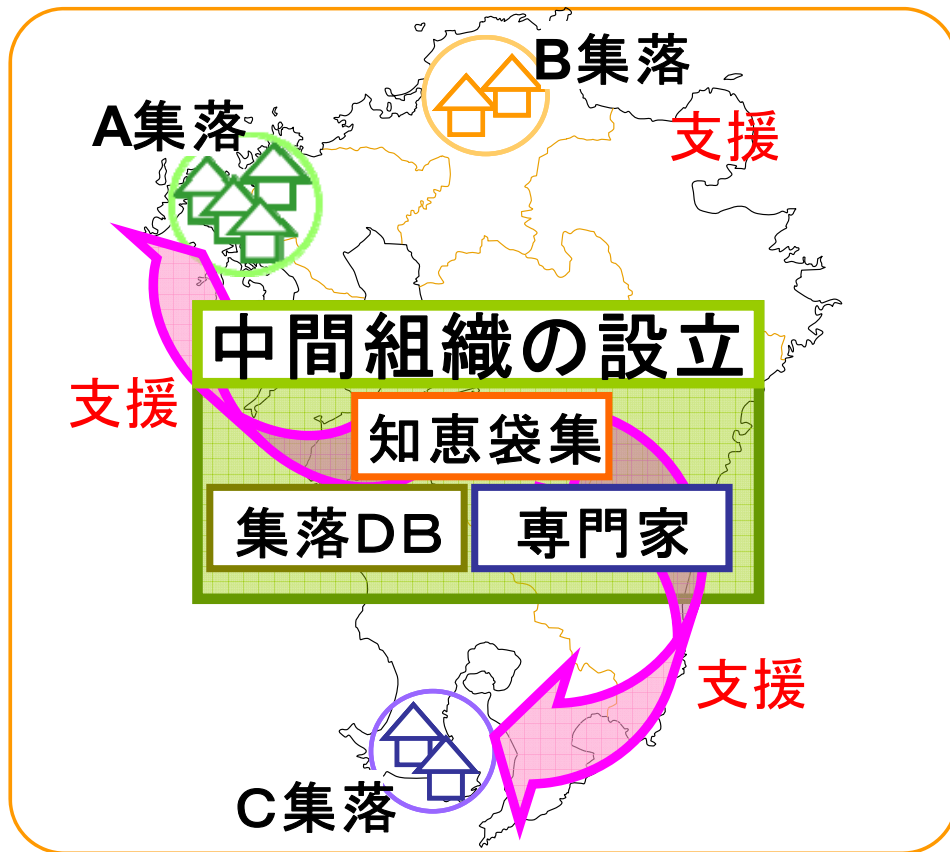
今後の課題として、多様な集落側ニーズへ対応するため、産・学・公・民による横断的な組織体制による集落支援体制の検討が必要である。

(2) 九州圏の「集落元気づくり」の支援を行う中間組織の検討(今後の取組提案)

九州圏の集落元気づくりの展開に向けた直接的な支援や支援者・団体の人材育成への支援を行うため、集落に対する総合的な支援を可能にする専門家集団(中間組織)の設立を検討する。

そのためには、下記の取組の実施が望まれる。

- 横断的組織体制構築に向けた検討
- 集落支援を実施している・実施したい団体との協働的取組体制の検討
- 集落データベースの分析、知恵袋集の活用



九州圏の「集落元気づくり」の支援を行う中間組織のイメージ図